

## 「統合脳」5 領域 第 2 回総括班会議

日時:平成 16 年 10 月 2 日(土) 10:30~12:00

場所:高輪プリンスホテル B1F プリンスルーム

出席者: 丹治 順、木村 實、狩野方伸、三品昌美、貫名信行、井原康夫、大森治紀、山森哲雄、青木 清、高田昌彦、伊佐 正、泰羅雅登、小松英彦、塚田 稔、榊 正幸、小田洋一、鍋倉淳一(学術調査官)、湯浅英哉(学術調査官)

1. 鍋倉学術調査官から、「統合脳」5 領域の審査状況について、「予算的にはかなり厳しい結果になったが、その枠内で研究組織がうまくまとまっており、基本的に非常に高い評価を受けた」との説明があった。また、今後は通常の特定期域研究と同等の扱いとし、領域運営に関する質問、相談、依頼等については学術調査官を通して対応することになった。
2. 丹治領域代表から、9 月 17 日の文部科学省訪問に関して以下の報告があった。
  - ① 現在までの進捗状況と「統合脳」シンポジウムの開催について説明した。
  - ② 研究計画調書の作成要領に関する説明を受けた。申請額については当初の申請額と内定額の間であれば問題ないが、基本的には内定額どおり交付される。また、原則として審査会で決定された内定額については変更できないが、もし変更点がある場合には調書の「変更」の欄に理由を明記する。
  - ③ 研究者育成支援委員会は支援班の性格に合致しないので、総括班に所属させる。
  - ④ 公募研究の採択については全体会議で調整を計りながら行う方向で、中間評価については 2 年目と 4 年目に行う方向で検討中である。また、脳領域委員会委員長が中西重忠氏から佐々木和夫氏に交代する。
3. 支援班の活動の進捗状況について
  - ① 研究リソース委員会では、11 月 25 日に第 1 回委員会を招集し、活動内容について具体的に検討する。また、委員会終了後に「脳活動計測新技術ユーザー検討会」を開催する。
  - ② データベース委員会では、「統合脳」5 領域共通のホームページを作成した。また、理化学研究所(臼井支朗氏)との間でニューロインフォーマティクスの構築に関する意見交換を行っている。
  - ③ 研究者育成支援委員会については、上記のように総括班に所属することになった。青木委員長から「公募で採択された 5 領域の若手研究者を一堂に集めて班会議を行い、議論、評価することを委員会活動のひとつにしてはどうか」という提案があった。

4. 来年度の夏、冬行事の会場と日程に関して、小松実行委員長から以下の説明があった。
  - ① 夏のワークショップ:会場は信州松代ロイヤルホテル(9月25日に下見)で、8月18日から21日までの3泊4日の日程で行う。18日午後から19日午前にサテライトシンポジウム1、19日午後にワークショップ、20日に班会議、21日にサテライトシンポジウム2を予定している。ワークショップについては第1領域が担当する。サテライトシンポジウム1については第3領域と第4領域が合同で、サテライトシンポジウム2については第2領域が担当する。また、貫名第5領域代表からゲノム領域との交流を図ってはどうかという提案があり、具体的な方法については、研究リソースやデータベースの共有も含めて、今後検討することになった。
  - ② 冬のシンポジウム:会場は一ツ橋の学術総合センター(10月1日に下見)に決定した。日程については12月21日から23日の2日間あるいは3日間を予定しているが、各領域における班会議の開催形式を考慮する必要があり、11月末頃に最終決定することになった。なお、シンポジウムについては第1領域が担当する。
5. 来年度の対外広報活動について、泰羅対外委員長から「2006年から始まる世界脳週間「脳の世界」展に向けて、読売新聞社主催のシンポジウムが東京、大阪、名古屋で開催されるので、それにリンクさせて「統合脳」としての広報活動を行いたい」という報告があった。
6. その他(高田事務局長から)
  - ① 第3回総括班会議は、「先端脳」冬の班会議終了後の12月23日午後に砂防会館2F会議室で行う。
  - ② ニュースレター等の領域内広報活動にはホームページを最大限に利用したいが、組織図および班員名簿については公募班員の確定後に冊子化したい。